

森島家住宅 主屋

南面して建つもので、東西 16.9m、南北 9.52m の木造平屋建の切妻造であるが、東面だけが寄棟造となっている。本体は瓦葺の純和風住宅である。東北角に台所を設け、その南側にはかつては帳場であった板敷きの事務室となっている。この事務室は営業や製品の管理、経理などを行うもので、それから南側に突出するように玄関が取り付け、その西側は板敷きの応接間となっている。古写真を見ると玄関は切妻造瓦葺の和風であったが、現在、外壁はモルタル塗、正面はパラペット形式に、屋根も鉄板葺の洋風に改築されている。玄関叩きの四周にはタイルが張られ、また外壁の一部にはスクラッチタイルが張られているところから、昭和前期に改修されたと考えられる。また、玄関東側に設けられた窓の意匠も昭和前期を思わせる造りとなっている。応接間は当初から洋間であったが、外壁は玄関と同じモルタル塗りに、また窓周りも改修されている。

主屋本体は庭に面した南側に幅 1.05m の廊下を設け、それに面して東から 6 畳、8 畳間が続き、その北も同規模の 6 畳、8 畳間となっている。この 4 部屋は襖によって仕切られ、それを取り外すことによって 28 畳もの大部屋としての機能をもっており、寝起きするだけでなく織り上がった反物を検品したり、問屋に広げて見せたりする作業場としても使用された。西側には押入れを設け、当主夫妻が居住していた西側の奥座敷 2 部屋とを区分している。奥座敷の廊下に面した南側は 8 畳間で、北側は 6 畳間となっている。8 畳間には床の間、違い棚が設けられ表座敷とは違う格の高さがうかがえる。北の間が 6 畳となっているのは、東蔵の蔵前が設けられているためである。

奥座敷は当主の居室だけでなく、大口取引がある問屋などの接待に使用されたという。奥座敷の屋根は南側に壁を立ち上げ、表座敷に比して切一段高く造られ、棟の高さも異なる。そのため奥座敷の屋根勾配は表座敷に比べてゆるい傾斜となっている。奥座敷の天井も高かったが、その後の改造で表座敷と同じ高さに整えたという。

南側廊下の突き当たりには隠居屋(子ども部屋)として東西 3.75m、南北 4.82m の 6 畳間が独立した状態で建てられている。

北東には寄棟造、瓦葺の 3.76m 四方の独立した浴室が設けられている。

また、浴室と東蔵の間には寄棟造、瓦葺の東西 2.62m、南北 2.23m の便所が設けられている。



主屋

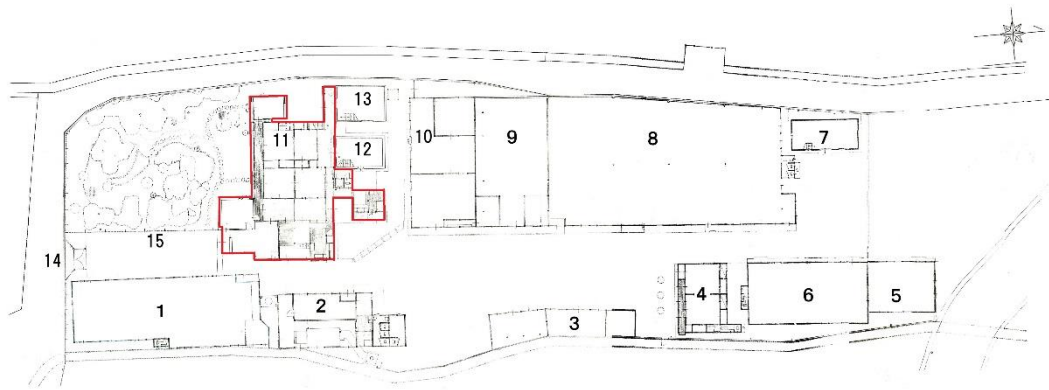


主屋



主屋背面

森秀織物工場 登録有形文化財建造物配置図



- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1. 森秀織物工場 | 10. 森秀織物旧釜場（織物参考館「紫」体験学習室） |
| 2. 森秀織物工場旧現場事務所（森秀織物経糸整経場） | 11. 森島家住宅 |
| 3. 森秀織物旧物置（森秀織物八丁撚糸場） | 12. 森島家住宅東蔵 |
| 4. 森秀織物旧寄宿舎（森秀織物製品加工場） | 13. 森島家住宅西蔵 |
| 5. 森秀織物旧寄宿舎（織物参考館「紫」受付及びミュージアムショップ） | 14. 森島家住宅表門 |
| 6. 森秀織物旧撚糸場（織物参考館「紫」学習室及び倉庫） | 15. 森島家住宅板塀・コンクリート塀・土塀 |
| 7. 森秀織物旧土蔵（織物参考館「紫」織蔵） | |
| 8. 森秀織物旧鋸屋根工場（織物参考館「紫」展示室） | |
| 9. 森秀織物旧経糸整経場（織物参考館「紫」展示ホール） | |

